

レイチェル・カーソン没後60年記念

山極壽一氏 講演会
「ゴリラから見た
地球の現状と未来」



対談 山極壽一氏 × 上遠恵子氏

地球は人間だけのものではない、すべての生きものは網の目を張り巡らせたようなバランスを保っており、人間もその網目の一つに過ぎないと、レイチェル・カーソンは『沈黙の春』で訴えています。人間はそのバランスを無視して、あまりにも自然を破壊してきているのではないのでしょうか。

野生の動物たちはそんな人間をどのように見ているのでしょうか。ゴリラと共に暮らし、ゴリラの生き方を学んでこられた山極壽一さんに、野生の目から見た地球の現状を語っていただき、「地球の一員としてのヒトの進むべき道」を考えていきましょう。

日時 : 2025年2月8日(土) 14:00~16:40

(受付開始 13:30より)

2/8
(土)

内容 : 第一部 山極壽一氏 講演会 (14:00~15:20)

第二部 対談 山極壽一氏 × 上遠恵子氏 (15:35~16:20)

質問タイム (16:20~16:40)

参加費 : 一般 1000円 中高生 500円

定員 : 150名

会場 : 日比谷図書文化館B1F 日比谷コンベンションホール

(東京都千代田区日比谷公園1-4 日比谷公園内)

・千代田線 霞ヶ関駅 C4出口

・丸の内線・日比谷線 霞が関駅 B2出口

【申込先】

Eメール : carsonkantou@gmail.com

TEL : 04-7184-5795 (島藤)

お名前、ふりがな、電話番号等をご明示ください。

※ 右のQRコードからもお申し込みいただけます。



山極壽一氏 講演会
申込みフォーム



主催 : レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム

協力 : レイチェル・カーソンあびこ

プロフィール



山極壽一（やまぎわじゅいち）

総合地球環境学研究所 所長 1952年東京都生まれ。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学。理学博士。

ルワンダ共和国カリソケ研究センター客員研究員、日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手、京都大学大学院理学研究科助教授、同教授、同研究科長・理学部長を経て、2020年まで第26代京都大学総長。人類進化論専攻。

屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長、日本学術会議会長、総合科学技術・イノベーション会議議員を歴任。

現在、総合地球環境学研究所 所長、2025年国際博覧会（大阪・関西万博）シニアアドバイザーを務める。南方熊楠賞、アカデミア賞受賞。

山極壽一氏ご著書

- 『「サル化」する人間社会』（2014年 集英社インターナショナル）
- 『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』（2020年 家の光協会）
- 『スマホを捨てたい子どもたち-野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』（2020年 ポプラ新書）
- 『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』（2021年 朝日新書）
- 『猿声人語』（2022年 青土社）
- 『人類は何を失いつつあるのか』（2022年共著 朝日新聞出版）
- 『ゴリラからの警告』（2022年 毎日新聞出版）
- 『動物たちは何をしゃべっているのか？』（2023年共著 集英社）
- 『共感革命-社交する人類の進化と未来』（2023年 河出新書）
- 『森の声、ゴリラの目-人類の本質を未来へつなぐ』（2024年 小学館新書）
- 『ゴリラとオオカミ・ヤギとゾウのお話』（2024年共著 今人舎）
- 『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』（2024年 毎日新聞出版）など多数

上遠恵子（かみとおけいこ）

1929年東京生まれ。エッセイスト、レイチェル・カーソン日本協会会長。東京薬科大学卒。1974年ポール・ブルックス『生命の棲家』（後に『レイチェル・カーソン』と改題）を訳出。以来カーソン研究をライフワークにする。訳書に『センス・オブ・ワンダー』、『海辺』、『潮風の下で』など。近著に『13歳からのレイチェル・カーソン』（監修）。他にレイチェル・カーソンに関する著書多数。

